

(様式1)

## 企画提案書

平成26年10月20日作成

道の駅名	(仮称)道の駅 おけがわ		
道の駅設置者	桶川市		
提案者の役職、氏名	桶川市長 小野 克典		
担当者の役職、氏名	桶川市 道の駅推進課 課長 粒良 紀夫		
連絡先	TEL:048-786-3211 E-Mail:michinoeki@city.okegawa.lg.jp		
道の駅の所在地	埼玉県桶川市川田谷地内		
整備手法	単独型・ <b>一体型</b>	全体施設面積	約 41,000 m <sup>2</sup> (予定)
接する道路の路線名	上尾道路	道路管理者	大宮国道事務所

### 提案の概要

#### (1)地域概要

・桶川市は、東京から40km、埼玉県のほぼ中央に位置し、横断する首都圏中央連絡自動車道、縦断する上尾道路によって「広域交通網の要」となっています。平成27年度に両高規格道路の本格的な開通が予定されていることから、周辺の道路環境整備が合わせて求められています。

平成23年4月に策定された桶川市の最上位計画である第5次総合振興計画では、道の駅計画地周辺における既設の川田谷生涯学習センター、桶川市農業センターを「コミュニティ拠点」に、また、都市公園である城山公園を「公園・みどりの拠点」にそれぞれ位置付けています。このような中、「休憩機能」「情報発信機能」「地域の連携機能」をもつ道の駅を、桶川市では広域交通網の結節点という地の利を最大限に活かし、「観光まちづくり拠点」に位置付けています。

#### ・位置図

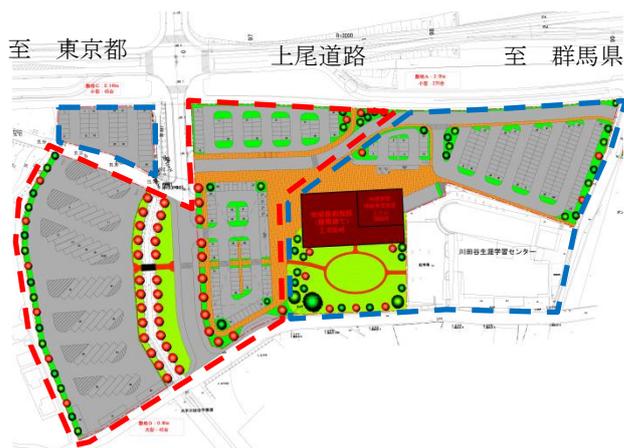
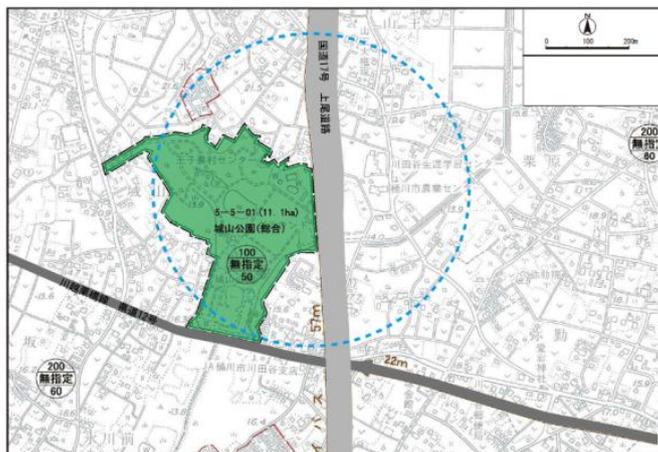


#### 凡例

	開通済
	事業中
	計画中

出典：大宮国道事務所 HP

また、大宮台地に占地することで地盤が良く、地震などの災害に非常に強い地域といえます。一例をあげると、東日本大震災の際、近隣自治体では瓦屋根が落ちるなどの被害が多くありましたが、当市では数件を数える程度でした。このことと前述の広域交通網の結節点であることを合わせ、首都圏を大地震などの大規模災害が襲った際の後方支援拠点として大きな役割を担うポテンシャルを秘めていると考えることから、「災害時防災拠点」としての機能をあわせ持つ道の駅の整備を目指しています。



レイアウト図 - -・道路管理者整備 - -・桶川市整備  
 ※整備範囲については、計画段階であり、今後変更される場合があります。

## (2) 地域で発生している課題及びその要因

道の駅周辺地域における課題は、大きく3つの要因に分けることができます。以下に、要因別に課題を整理します。

### 【地域社会が抱える課題】

- ・ 観光情報の発信
- ・ 地域内情報の発信
- ・ 農家人口の減少、高齢化に伴う休耕地や耕作放棄地の拡大
- ・ 営農独立のためのオリジナル商品の開発・ブランド化
- ・ 農産物や特産品などを販売するチャンネルの不足

### 【道路網の整備に伴い発生している課題】

- ・ 周辺主要道路に関する情報の提供
- ・ 道路利用者の休憩施設の不足

- ・交通量の増加に伴う事故の増加

【社会要請に伴う課題】

- ・広域交通網の結節点であることと同時に、周辺に配備されている防災関連施設との有機的な連携
- ・防災、減災に関する情報の発信
- ・環境面や非常時に対応するための太陽光発電やEV充電設備などの整備

### (3)提案メニュー

(1) ゲートウェイ型 ～地域外から活力を呼ぶ「道の駅」～

#### ①インバウンド観光「道の駅」

- a) 多言語に対応した案内、d) 無料公衆無線 LAN 環境の提供、e) EV 充電設備の設置

近年、外国人観光客の来訪者数の増加が伝えられていますが、桶川市は圏央道の全線開通により成田空港から約 80 分でつながることになります。市内には国指定重要文化財や国登録文化財などとともに近隣には小江戸川越など、外国人に人気の観光スポットもあります。また、当市から高速道路利用 90 分の範囲には世界遺産に登録されている日光や富士山、富岡製糸場等があり、多言語化したパンフレットや案内板、無料公衆無線 LAN などのサービスを整備することで、埼玉県観光のみならず関東地方の観光のハブとしての機能を発揮することが可能となります。加えて、今後EV車や燃料電池車の普及が予想される中、充電設備等の整備により安心した観光が可能となります。

#### ②観光総合窓口「道の駅」

- a) 地域全体の観光案内機能、c) 知的好奇心を刺激する機会の提供、d) 体験・交流機会の提供

桶川市は、かつて中山道から 1 日行程の宿場町兼農作物の集散地として栄え、特に紅花は「桶川臙脂」として、幕末に山形の「最上紅花」に次いで全国で二番目の生産量を誇っていました。往時を伝える「中山道桶川宿本陣遺構」は、皇女和宮が降嫁の際に宿泊した建物で、県内では唯一現存する史跡です。また、市西部には旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場があり、当時を知るボランティアの方々の案内を聞くことができます。また、様々な民俗芸能も伝わっていることから、その体験も可能です。道の駅計画地内の歴史民俗資料館は、これら地域の歴史・民俗を案内する窓口機能となります。

このほか、都心から 40km 程の距離にありながら田園風景と豊かな自然が広がる当地は、日本で初めて自然再生法に基づく協議会が設立された「荒川太郎右衛門自然再生事業地」の見学やボランティア活動への参加、あるいは観光農園や紅花染め体験ができる農家などもあり、手軽に様々な体験を行うことができます。また、計画地内の城山公園では、バーベキュー広場の再整備を予定しています。このように道の駅の情報発信機能を活かし、単なる物見遊山的な観光ではなく、来訪者と地域資源をつなぐ役割を担っていきます。

(2) 地域センター型 ～地域の元気を創る「道の駅」～

#### ①産業振興「道の駅」

- a) オリジナル商品開発、ブランド化、b) 雇用の創出、c) 地域の特産品を活かした産業振興

桶川市は、全国的に希少な紅花の生産地として知られています。また、酪農家や梨農家等が近隣に比べ多くあります。しかし、東京から 1 時間という通勤圏であるということもあり、農業以外で生計を立てていくことが容易なことから、ある意味、中山間地以上に農業の継承が難しいといえます。

こうした問題を解決するには、生産者のやる気を起こし、高品質の農作物を育て、売上を増やしていくという「正のスパイラル」を作り出す必要があります。そこで、農業振興のシンボルとして道の駅（農産物直売所や加工施設）を設置します。このことにより、現在、市場に出荷していない農家の方にも農作物を出荷を促し、あるいは今まで自家消費できない分として廃棄されていた農作物の有効利用や新鮮な野菜を喜ぶ消費者を知ることによって、徐々にやる気を高めていくという小さなステップを経て、最終的には生乳や梨など、地域の特産品を加工し販売する農商工連携、6 次産業化を視野に入れた産業振興へと繋げていきます。また、産業振興のみならず、元気な住民が増えることで地域活性化という役割を道の駅が果たしていきま

す。

### ③防災「道の駅」

a) 自衛隊、警察、消防等の広域支援部隊が参集する後方支援拠点機能、b) 地場産品の取扱や燃料保有、非常電源装置等によるバックアップ機能、c) 平時からの防災啓発教育のため、既往災害等の情報発信

桶川市は道路交通網の結節点であるばかりではなく、周辺には埼玉県防災航空隊のあるホンダエアポートや災害時の医薬品を備蓄する埼玉県中央防災基地（川島町）、埼玉県の災害拠点病院に指定されている北里大学メディカルセンター（北本市）があります。また、総合公園である城山公園は、市の防災活動拠点に指定されていることから、これを一体的に登録、活用することにより、周辺の防災関連施設との連携と同時に、首都圏で大規模災害が発生した場合の最前線の支援拠点として活用することが可能となります。

また、被災された方の避難拠点として捉えた場合、災害時に炊出し・トイレ・電源・照明等の生活に欠かせない機能を確保する必要があります。防災かまどベンチ、防災マンホールトイレ、災害用井戸、非常用電源を備えたソーラー照明灯などを整備し、高い防災機能を備えた道の駅を整備します。

## (4)実施スケジュール

内容	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
【ハード事業】							
■計画準備							
1 基本構想		■					
基礎調査		■					
基本計画			■				
■用地調査・買収							
2 測量調査			■				
用地買収				■			
■設計							
3 基本設計				■			
実施設計					■		
■工事							
4 造成					■		
建築						■	
【ソフト事業】							
■管理運営等計画策定							
5 商品供給体制の構築			■				
運営体制の構築				■			
6 開設準備						■	
7 道の駅登録申請							■

準備期間
  実施期間
  調整期間

上表のとおり、平成 26 年度中に基本計画を策定し、平成 27 年度に用地買収、平成 28 年度に設計・造成工事、平成 29 年度建築工事、平成 30 年度の供用開始を予定しています。運営面等のソフト事業については、平成 26 年度より管理運営等計画策定業務に取り掛かり、開業に向けて人材育成や商品開発に取り組んでいきます。

## (5)提案実現のための実施体制

現在、桶川市「道の駅」基本計画の策定に向け、（仮称）道の駅おけがわ設置検討委員会、（仮称）道の駅おけがわ建設検討庁内委員会を設置し、検討を行っています。事務局は、道の駅推進課が所掌し、道路管理者を始めとする関係機関や関係課との調整を行っています。

また、平成 26 年度は、供用開始を見据え、道の駅の担い手となる第 3 セクターへと発展させるべく農業者・商工者・地域連携などに分かれ、道の駅をどのように活用していくか等の検討に取り組んでいます。

**(6)効果把握の手法案**

インバウンド観光：公衆無線 LAN の接続者数や EV 充電施設の利用者数を把握し、効果を測定します。

観光総合窓口：地域の観光資源への来訪者数を調査し、効果を把握します。

産業振興：売上金額、雇用創出等の効果を捉えています。

防災：防災訓練の場等として活用し、訓練の参加者の人数を以て効果を捉えます。

**(7)市町村(道路管理者)の協力** ※市町村に代わり得る公的な団体、または一体型道の駅の場合に提出

平成 24 年 8 月、上尾道路の道路管理者である大宮国道事務所へ『桶川市「道の駅」基本構想』及び『道の駅整備要望書』を提出し、平成 25 年 11 月に一体型道の駅整備に向けて協議を開始しています。